



## 地域の実情にあわせた計画を進める

### —南丹市交通安全対策審議会—



▲市長に答申を行う大道会長（写真中央）

一月二十五日、南丹市交通安全対策審議会（大道芳夫会長）が南丹市役所で開かれ、審議会では南丹市内における交通を取り巻く環境の変化や交通状況を踏まえ、平成十八年度から平成二十二年度までの長期的な施策の大綱としての「南丹市交通安全計画」が審議されました。

計画では、市民を交通事故の脅威から守り、平成二十二年までに年間の負傷者数を百五十人以下とすることを指すとともに、交通事故による死者数をゼロに近づけることを目標としています。

具体的には、身近な生活道路を始めとして人優先の道路、交通環境整備の強化を図り、



▲市の交通安全計画が審議されました

安全な道路交通網の整備を進めるとしています。

また、一人ひとりが安全で快適な交通社会を築く一員として、交通安全意識と交通マナーの向上に努めるために、年齢に応じた交通安全教育を推進し、正しい交通ルールと交通マナーの実践を習慣付け、安全で住みよい南丹市を目指すとしています。

二月六日に行われた答申の際には、大道会長が「高齢化による運転能力の低下対策が必要」と述べられ、佐々木市長は「市民の皆さんの協力をもとに計画を進めたい」と答えていました。



▲地元消防協力隊による初期消火訓練

一月二十一日、園部町船阪の九品寺で、園部消防署をはじめ、地元消防協力隊や神社の関係者による、裏山からの火災を想定した文化財防火訓練が行われました。

発煙機による煙で緊張感が広がる中、地元消防協力隊が広がり、初期消火訓練を行い、通報を受けて駆けつけた消防署員が、山林に向かって勢いよく放水訓練を行いました。

また、日吉地域、八木地域、美山地域でも訓練が行われ、大切な財産を守る意識を高めました。

### 文化財を火災から守る —文化財防火デー—

### 有事の際に市民を守る —南丹市国民保護協議会—



▲市民の安全を守るための計画が検討されました

二月二十日、南丹市役所で「第一回南丹市国民保護協議会」が開かれました。

会議には、国や京都府、消防、警察、各教育機関、各公共機関、市役所など二十一団体から三十三人が出席しました。

会議では、佐々木稔納市長が「安心・安全のまちを実現するため、それぞれの立場から意見をいただきたい」とあいさつ。有事の際に各関連機関と連携し市民の生命、身体および財産を保護する「南丹市国民保護計画」が検討され、策定されます。